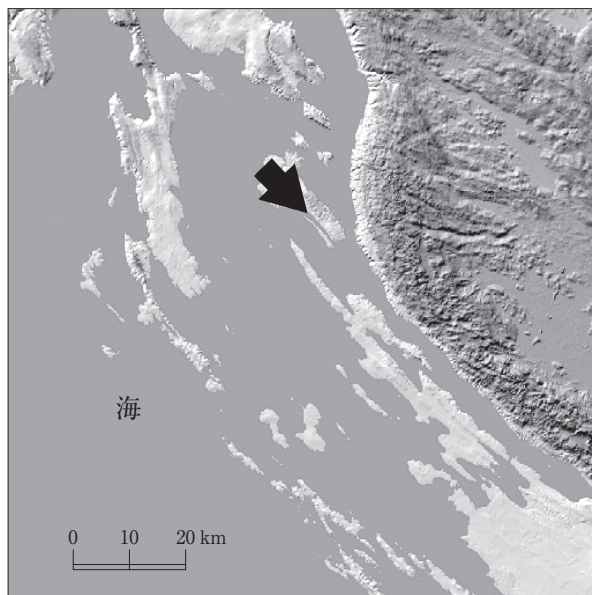


地 理 B

(解答番号 ~)

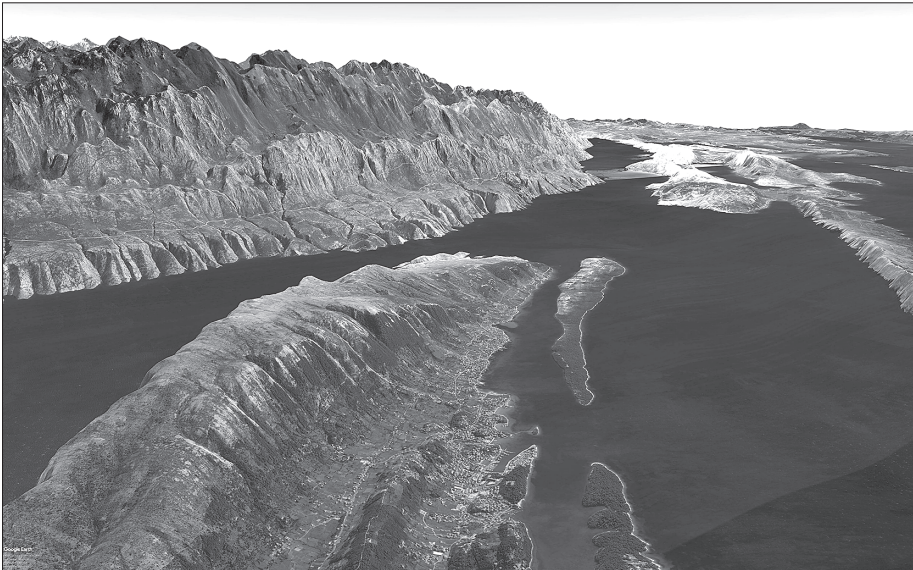
第1問 人々の生活は、世界各地の自然環境とかがわりながら形成されてきた面がある。世界の自然特性を様々な角度から考えるための下の問い(問1～6)に答えよ。
(配点 20)

問1 現在では世界各地の自然環境を考察するために、GIS(地理情報システム)が積極的に使われている。次の図1は、世界のある海岸地方の衛星データからGISで作成した地図である。また、次ページの図2は、図1中の矢印の視点からの地形景観を3D化したものであり、図2の下の文章は、この地域の海岸地形の形成過程についてまとめたものである。次ページの文章中の空欄アとイに当てはまる語の正しい組合せを、次ページの①～④のうちから一つ選べ。



JAXAの資料により作成。

図 1



高さは強調して表現してある。Google Earth により作成。

図 2

図1では、海岸線とほぼ(ア)して、細長い島々が配列している様子が読み取れる。これは、海岸線と同じ向きの稜線をもった地形が沈水し、稜線の一部が沈水から取り残されて島々ができたことを示している。すなわち、図2にみられる海岸付近の山地と島に挟まれた海域は、雨水や河川など主に(イ)営力により形成された谷に、海水が侵入してできたものと考えられる。

	①	②	③	④
ア	直交	直交	平行	平行
イ	外的	内的	外的	内的

地理B

問 2 人々の生活に影響を及ぼす自然の力は、世界の中に偏在している。次の図3中のA～Cは、火山噴火や地震が多い地域を示している。また、次ページの図4中のカ～クは、図3中のA～Cのいずれかの範囲を示しており、jとkは火山または地震の震央*のいずれかである。図3中のAの範囲に当てはまる図と、図4中のjがあらわすものとの正しい組合せを、次ページの①～⑥のうちから一つ選べ。

*2000～2016年に観測されたマグニチュード6.0以上の地震の震央。

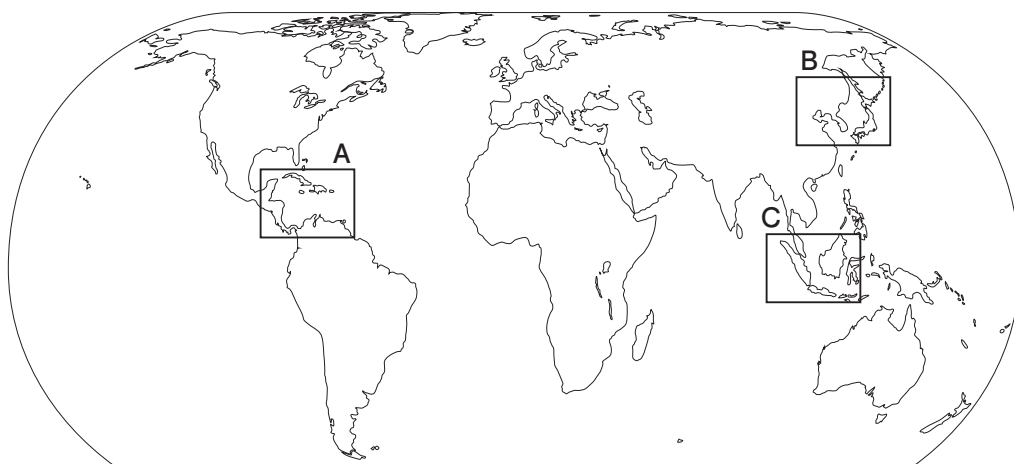
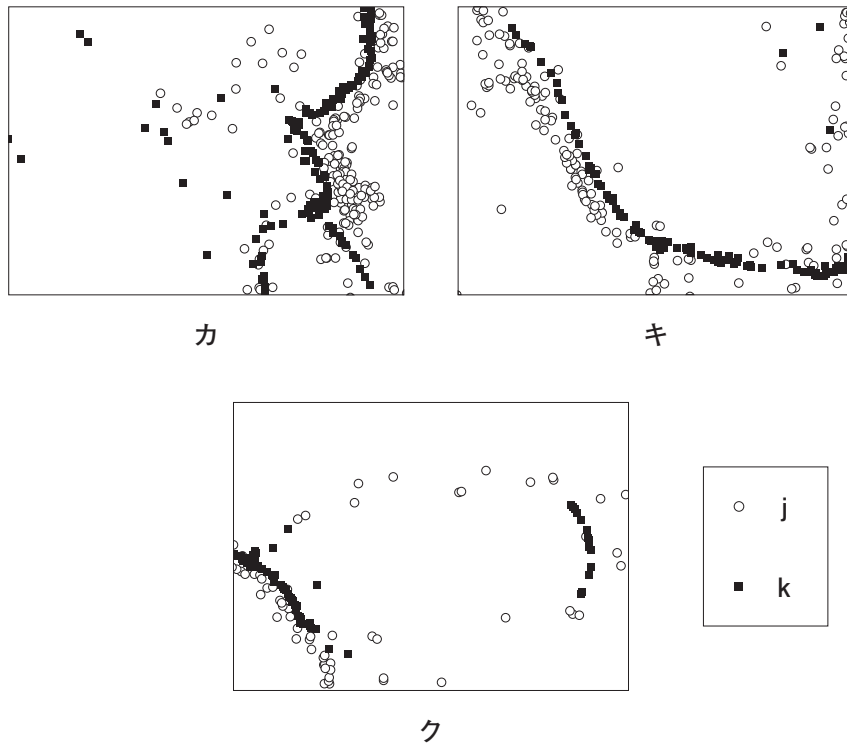


図 3



USGS の資料などにより作成。

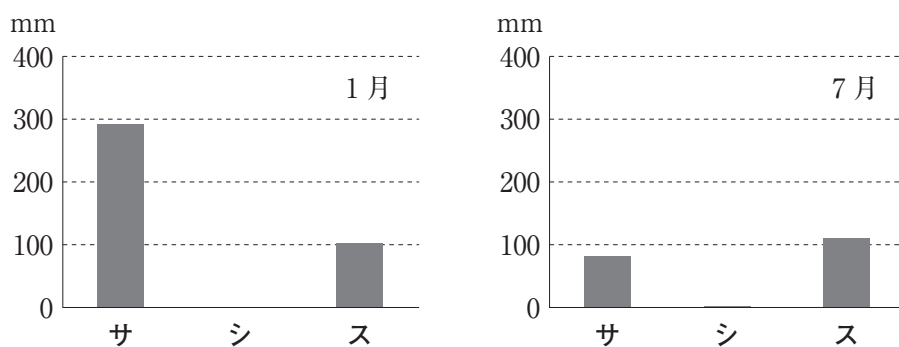
図 4

	①	②	③	④	⑤	⑥
A	カ	カ	キ	キ	ク	ク
j	火山	地震の震央	火山	地震の震央	火山	地震の震央

地理B

問 3 世界各地の気候は様々な背景によって影響を受ける。次の図5中のサ～スは、下の図6中の地点E～Gのいずれかにおける1月および7月の降水量を示したものである。図5中のサ～スについて述べた次ページの文中の下線部について、正誤の組合せとして正しいものを、次ページの①～⑧のうちから一つ選べ。

3



『理科年表』により作成。

図 5



図 6

地理B

サ：1月に降水量が多く7月にも降水がみられることから、北東貿易風と南東貿易風の収束帯などの影響を受ける地点Eだろう。

シ：両月ともに降水量がほぼ記録されていないことから、高い山脈の風下側に位置するなどの影響で、低地の気温も低く雲が発達しにくい地点Fだろう。

ス：両月ともに降水がみられるが、大きく変化しないことから、寒気と暖気の境界に生じる前線などの影響を受ける地点Gだろう。

	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧
サ	正	正	正	正	誤	誤	誤	誤
シ	正	正	誤	誤	正	正	誤	誤
ス	正	誤	正	誤	正	誤	正	誤

問4 自然環境の特徴について検討するためには、目的に応じて適切な方法を選択することが重要である。「今年の夏季は例年に比べて暑かった」ということを、世界の様々な地点において客観的に検討するための方法として最も適当なものを、次の①～④のうちから一つ選べ。 4

- ① 「猛暑日」(最高気温 35℃ 以上の日)という指標を用い、検討対象地点の猛暑日数平年値(30年間の平均値)と今年の猛暑日数とを比較する。
- ② 検討対象地点とその周辺にある気象観測所の今年の夏季の気温データを収集し、気温の分布図を作成する。
- ③ 検討対象地点における夏季の平均気温平年値(30年間の平均値)を求め、今年の夏季の平均気温と比較する。
- ④ 検討対象地点付近で、通行する人に聞き取り調査し、今年の夏季の気温についての考えを聞く。

地理B

問 5 人々の生活の場は、自然の特性を生かして形成されていることがある。次の図7は、日本の河川の上流から下流にかけての地形を模式的に示したものであり、下のタ～ツの文は、図7中の地点P～Rにおける典型的な地形と土地利用の特徴について述べたものである。P～Rとタ～ツとの正しい組合せを、下の①～⑥のうちから一つ選べ。 5

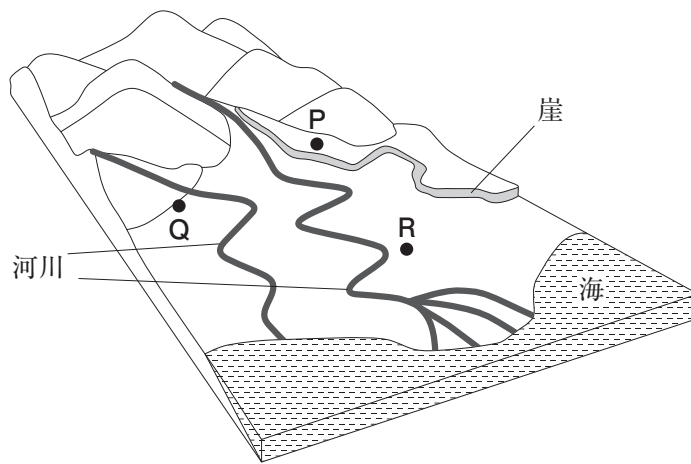


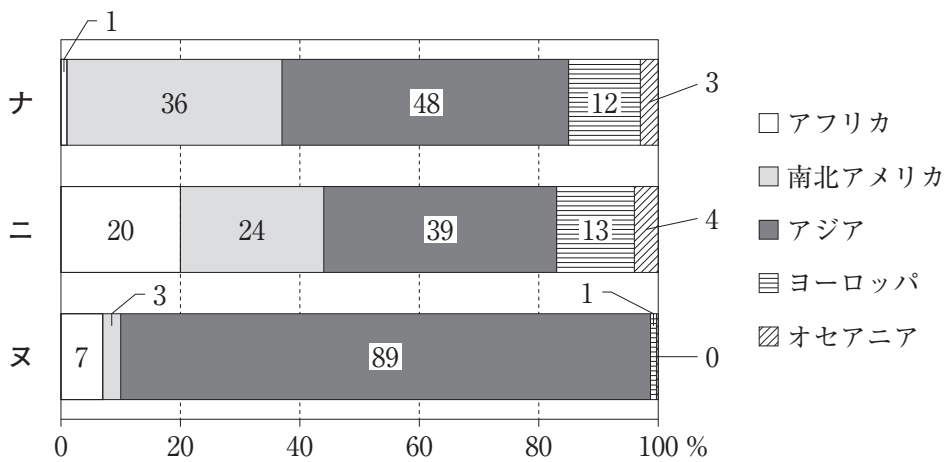
図 7

- タ 河川近くの砂などが堆積した微高地は古くからの集落や畑などに、河川から離れた砂や泥の堆積した水はけの悪い土地は水田などに利用されてきた。
- チ 砂や礫れきが堆積して形成された土地で、地下にしみこんだ伏流水が湧き出しやすく、水が得やすいため集落が形成されてきた。
- ツ 3地点の中では形成年代が古く、平坦な地形で、水が得にくいため開発が遅れる傾向があり、用水路の整備にともない水田や集落の開発が進んだ。

	①	②	③	④	⑤	⑥
P	タ	タ	チ	チ	ツ	ツ
Q	チ	ツ	タ	ツ	タ	チ
R	ツ	チ	ツ	タ	チ	タ

問 6 自然災害にともなう被害の規模は、地域の自然条件とともに社会条件ともかわりがある。次の図 8 中のナ～ヌは、1986 年から 2015 年の間に世界で発生した自然災害*の、発生件数、被害額、被災者数のいずれかについて地域別の割合を示したものである。ナ～ヌと指標名との正しい組合せを、下の①～⑥のうちから一つ選べ。 6

*自然現象に起因する災害で、10 名以上の死者、100 名以上の被災者、非常事態宣言の発令、国際援助の要請のいずれかに該当するもの。



Natural Disaster Data Book 2015 により作成。

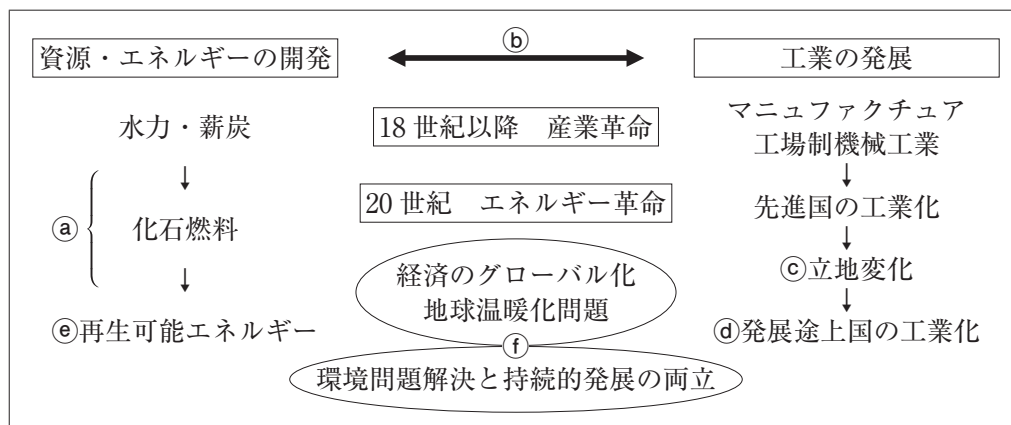
図 8

	ナ	ニ	ヌ
①	発生件数	被害額	被災者数
②	発生件数	被災者数	被害額
③	被害額	発生件数	被災者数
④	被害額	被災者数	発生件数
⑤	被災者数	発生件数	被害額
⑥	被災者数	被害額	発生件数

地理B

第2問 資源・エネルギーの開発と工業の発展に関する次の模式図を見て、図中の

①～⑥に関する下の問い(問1～6)に答えよ。(配点 20)



問1 ①に関して、次の表1は、世界のエネルギー資源の埋蔵量と、埋蔵量を年間生産量で除した可採年数を地域別に示したものであり、①～④は、アフリカ、北アメリカ(メキシコを含む)、中・南アメリカ(メキシコを除く)、西アジアのいずれかである。アフリカに該当するものを、表1中の①～④のうちから一つ選べ。

7

表 1

	石油		天然ガス		石炭	
	埋蔵量 (億バレル)	可採年数 (年)	埋蔵量 (兆 m ³)	可採年数 (年)	埋蔵量 (億トン)	可採年数 (年)
①	8,077	70	79.1	120	12	752
②	3,301	126	8.2	46	140	141
③	2,261	31	10.8	11	2,587	335
欧州(ロシアを含む)・中央アジア	1,583	24	62.2	59	3,236	265
④	1,265	43	13.8	61	132	49
アジア(西アジアを除く)・太平洋	480	17	19.3	32	4,242	79

統計年次は2017年。

BP Statistical Review of World Energyの資料などにより作成。

問 2 ⑥に関して、次の図1は、石油や鉄鉱石の利用を事例として、資源・エネルギーの産出から加工、さらには利用・消費について写真と文章で示したものである。図1中の文章中の下線部①～④のうちから、適当でないものを一つ選べ。

8

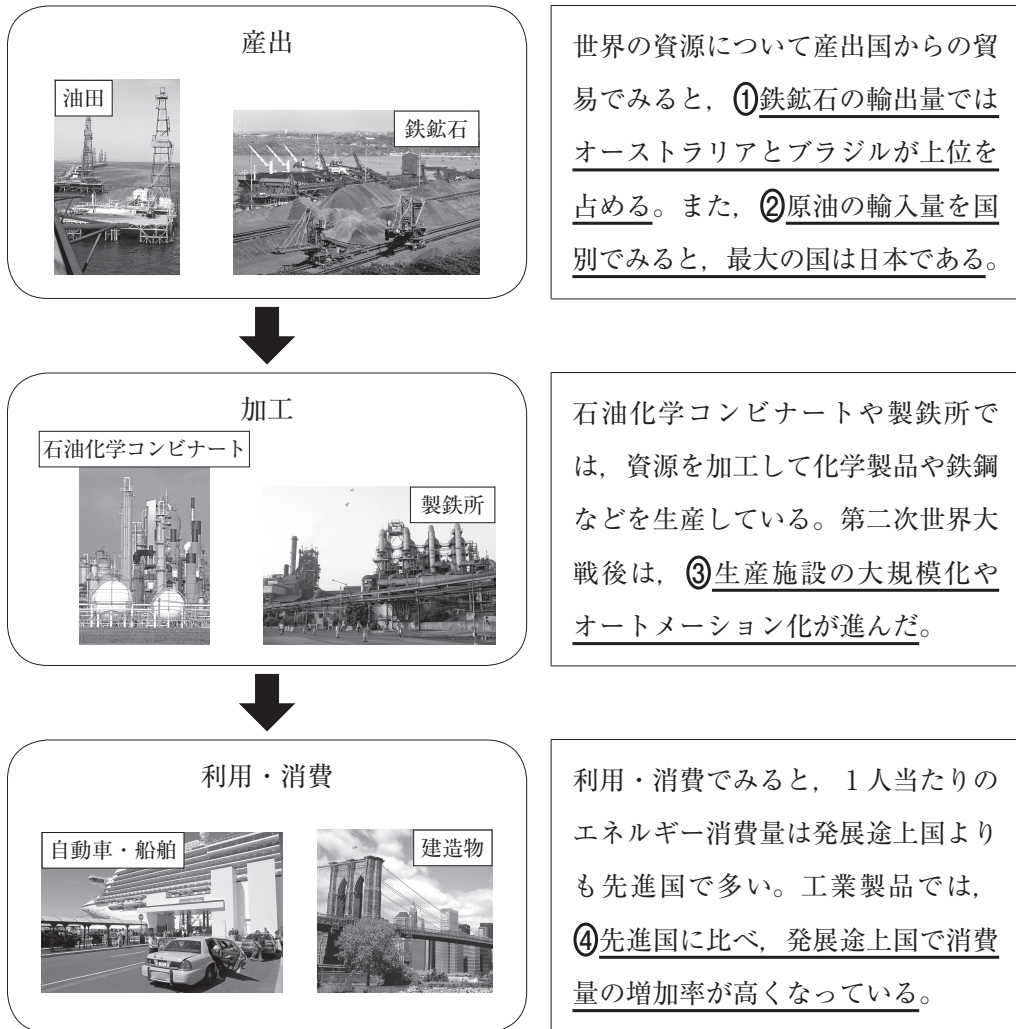
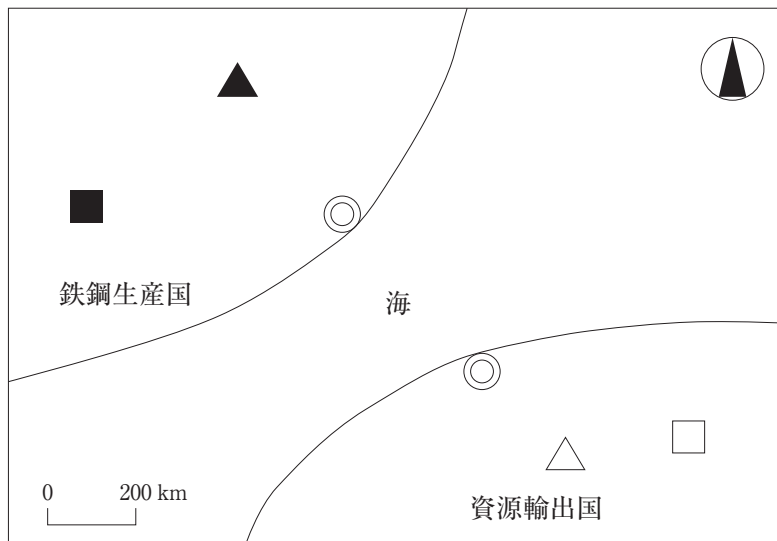


図 1

地理B

問 3 ㉔に関して、資源使用量の変化とともに製鉄所の立地は変化してきた。次の図 2 は、仮想の地域を示したものであり、下の枠は地図中の凡例および仮想の条件である。このとき、次ページの図 3 中のア～ウは、1900 年前後、1960 年前後、2000 年前後のいずれかにおける鉄鋼生産国の製鉄所の立地場所を示したものである。輸送費の観点から年代順で立地の変化を考えたとき、年代とア～ウとの正しい組合せを、次ページの①～⑥のうちから一つ選べ。ただし、地図で示されていない自然環境や社会環境は条件として考慮しない。

9



< 凡例および仮想の条件 >

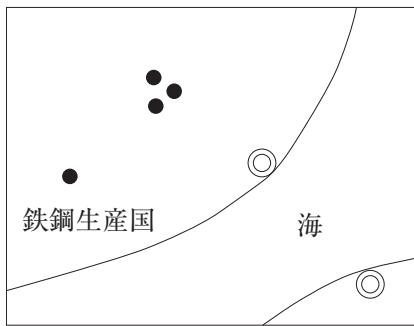
- ・ ■石炭，▲鉄鉱石・・・坑道掘り
- ・ □石炭，△鉄鉱石・・・露天掘り
- ・ 図中の◎は貿易港をもつ都市を示している。
- ・ 1970 年代以降、坑道掘りは産出量が減少する一方、露天掘りは産出量が増加して、図中の南東側の国が資源輸出国となったとする。
- ・ 次ページの表 2 は、鉄鋼製品 1 トン当たりの石炭と鉄鉱石の使用量の推移を示している。

図 2

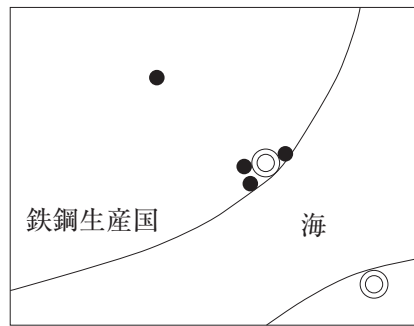
表 2 鉄鋼製品1トン当たりの石炭と鉄鉱石の使用量の推移

(単位：トン)

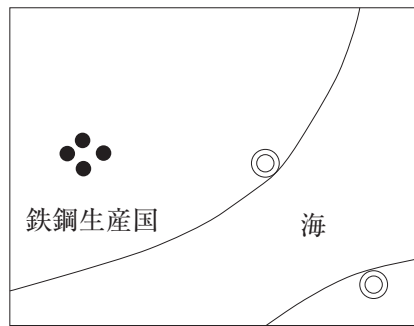
	1901年	1930年	1960年	1970年	2000年
石炭	4.0	1.5	1.0	0.8	0.8
鉄鉱石	2.0	1.6	1.6	1.6	1.5



ア



イ



ウ

● 製鉄所
○ 貿易港をもつ都市

図 3

	①	②	③	④	⑤	⑥
1900年前後	ア	ア	イ	イ	ウ	ウ
1960年前後	イ	ウ	ア	ウ	ア	イ
2000年前後	ウ	イ	ウ	ア	イ	ア

地理B

問 4 ㉔に関して、東アジア・東南アジアにおける発展途上国の工業化について述べた文として最も適当なものを、次の①～④のうちから一つ選べ。 10

- ① 各国・地域の工業化は、輸出指向型から、外国資本の導入による輸入代替型の工業化政策に路線を転換することで進んだ。
- ② 工業化にともなって、先進国との貿易が増加して、東アジア・東南アジア域内の貿易額が減少した。
- ③ 中国の重化学工業化は、都市人口の増加を抑制し、国内の沿岸部と内陸部との地域間経済格差を緩和した。
- ④ 東南アジアの自動車工業は、原材料から最終製品までの生産において、国境を越えた工程間の分業によって発展した。

問 5 ㉔に関して、次の表 3 中のカ～クは、水力、地熱、バイオマスのいずれかの発電量上位 5 か国を示したものである。カ～クと再生可能エネルギー名との正しい組合せを、下の①～⑥のうちから一つ選べ。 11

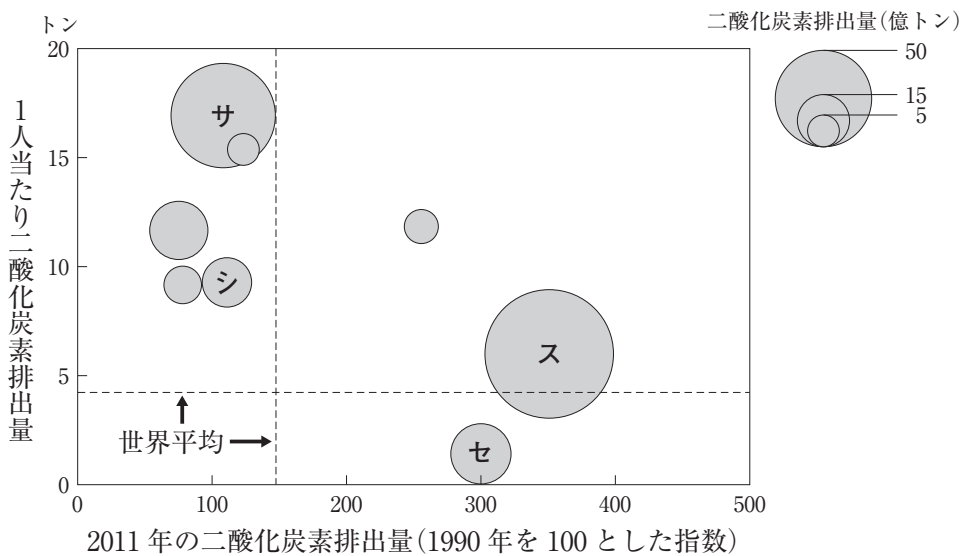
表 3

	1 位	2 位	3 位	4 位	5 位
カ	アメリカ合衆国	フィリピン	インドネシア	ニュージーランド	メキシコ
キ	アメリカ合衆国	中国	ドイツ	ブラジル	日本
ク	中国	ブラジル	カナダ	アメリカ合衆国	ロシア

中国には、台湾、ホンコン、マカオを含まない。統計年次は、水力とバイオマスが 2016 年、地熱が 2014 年。『自然エネルギー世界白書 2017』などにより作成。

	①	②	③	④	⑤	⑥
カ	水力	水力	地熱	地熱	バイオマス	バイオマス
キ	地熱	バイオマス	水力	バイオマス	水力	地熱
ク	バイオマス	地熱	バイオマス	水力	地熱	水力

問 6 ㉔に関して、次の図4は、二酸化炭素排出量の世界上位8か国について、1人当たり二酸化炭素排出量と、1990年を100とした指数で2011年の二酸化炭素排出量を示したものであり、円の大きさはそれぞれの国の二酸化炭素排出量を示している。図4から考えられることがらとその背景について述べた文として適当でないものを、下の①～④のうちから一つ選べ。 12



統計年次は、各国の二酸化炭素排出量と1人当たり二酸化炭素排出量が2011年。『世界国勢図会』などにより作成。

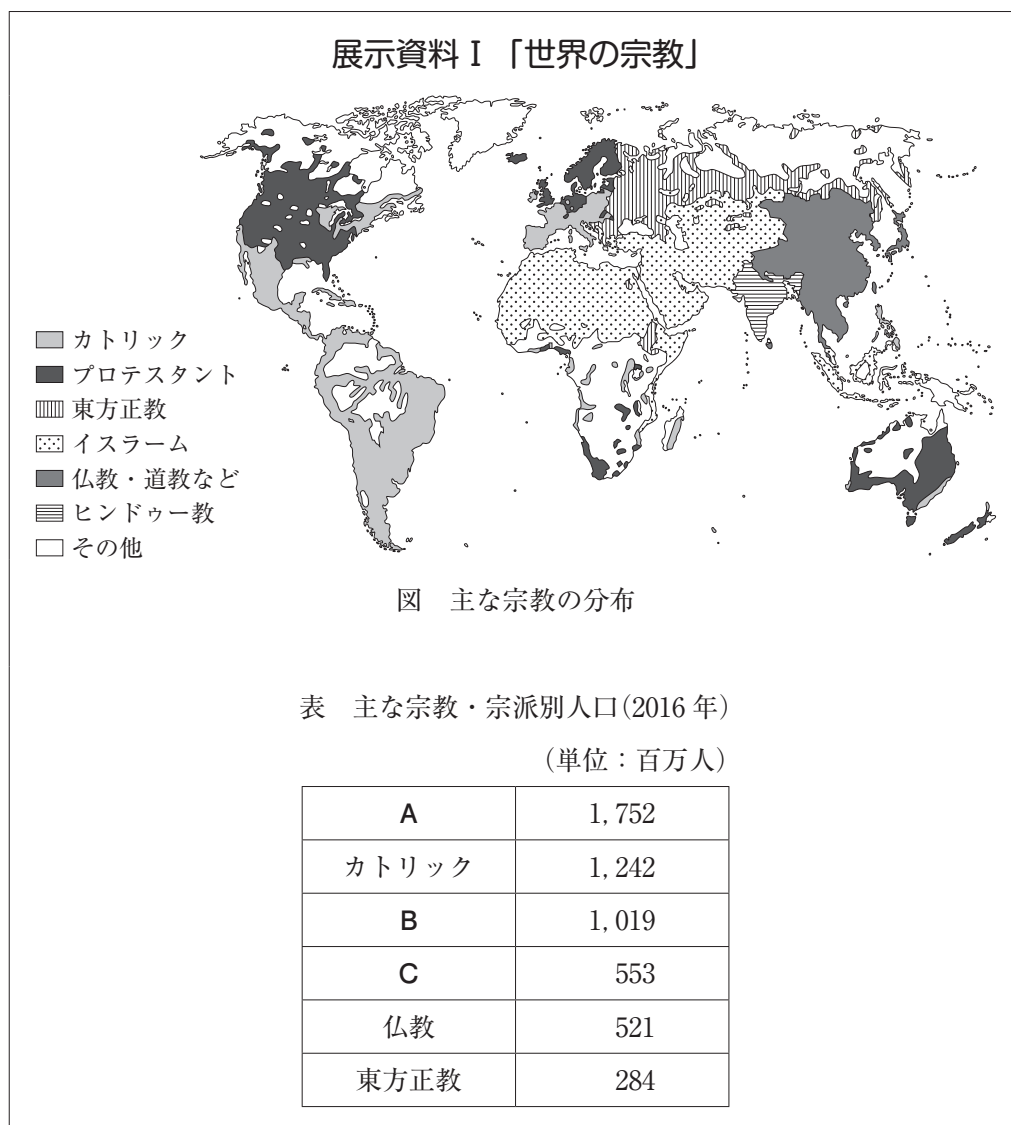
図 4

- ① サは、環境問題への対策が遅れており、1人当たり二酸化炭素排出量が8か国の中で最大となっている。
- ② スは、急速な工業化によって、1人当たり二酸化炭素排出量が増加している。
- ③ サとシは、再生可能エネルギーや電気自動車が普及すると、それぞれの円の位置が右上方向に移行する。
- ④ スとセは、今後も経済発展が進むと、世界全体の二酸化炭素排出量が大きく増加することが懸念されている。

地理B

第3問 高校生のミズホさんたちは、地理の授業で生活文化の多様性について学んだ。その学習の成果を学校の文化祭で他の生徒たちにも伝えるために、展示資料を作成することにした。展示資料Ⅰ～Ⅲに関する下の問い(問1～6)に答えよ。

(配点 20)



図は *Alexander Schultatlas* により作成。

表は *The World Almanac and Book of Facts* により作成。

地理B

問 1 ミズホさんたちは、世界の宗教の多様性を示すために、主な宗教の分布や人口について、展示資料 I にまとめた。展示資料 I の表中の A～C は、イスラーム、ヒンドゥー教、プロテスタントのいずれかである。A～C と宗教・宗派名との正しい組合せを、次の①～⑥のうちから一つ選べ。 13

	①	②	③	④	⑤	⑥
イスラーム	A	A	B	B	C	C
ヒンドゥー教	B	C	A	C	A	B
プロテスタント	C	B	C	A	B	A

問 2 次にミズホさんたちは、世界の宗教がどのようにして現在のような分布になったのか、各宗教が伝播する経路を展示資料 I の図中に書き込むことにした。それについて話し合った会話文中の下線部①～④のうちから、**適当でないもの**を一つ選べ。 14

ミズホ 「世界各地の宗教のなかでも、キリスト教とイスラームと仏教は世界各地に広く分布しているね」

アズサ 「①キリスト教はヨーロッパの人々が他の大陸へ入植したり、植民地支配を進めたりしたことで広まったのではないかな」

ツバサ 「同じキリスト教でも、②東方正教はゲルマン語派の言語を話す国々を中心に伝わっていったようだね」

ミズホ 「③イスラームは交易や領土の拡大によってアラビア半島から北アフリカに伝わったと考えられるよ。その後は中央アジアや東南アジアにも拡大しているね」

アズサ 「インドで生まれた仏教は、中国を經由して東アジアへ伝わった経路のほかに、④南アジアから東南アジアへ伝わった経路があるんじゃないかな」

地理B

展示資料Ⅱ「生活文化と自然環境」

表 各地域の伝統的な衣服と家屋

	伝統的な衣服	伝統的な家屋
ア地域	丈夫で加工しやすい毛織物を使った衣服	石灰岩などの加工しやすい石を利用した石積みの家屋
イ地域	狩猟で得た獣皮を裁断・縫製した衣服	豊富にある木材を加工して組立てられた木造家屋
ウ地域	放熱性に優れた麻や木綿を素材とする衣服	①土を素材とした日干しれんが積みなどの家屋

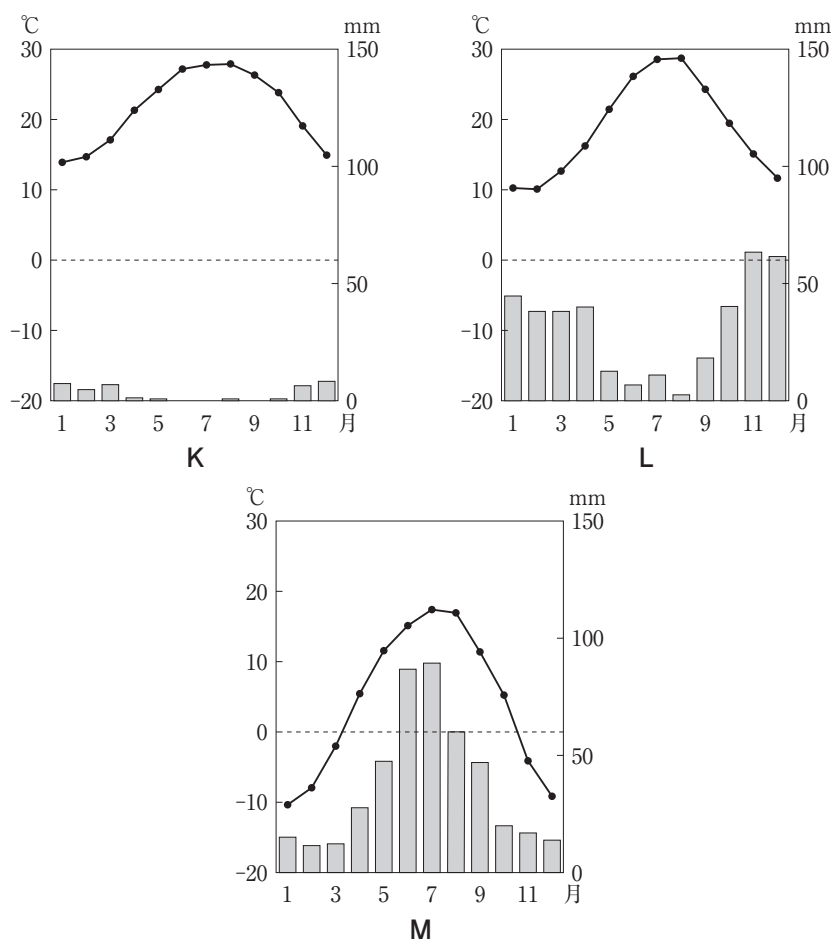


図 各地域に位置する都市の雨温図

図は『理科年表』により作成。


問 3 ミズホさんたちは、生活文化の多様性が自然環境と関係していることを明らかにするために、気候に特色がある地域別に伝統的な衣服と家屋について調べ、展示資料Ⅱをまとめた。展示資料Ⅱの図中のK～Mは、表中のア～ウの地域に位置する都市の雨温図を示したものである。K～Mとア～ウとの正しい組合せを、次の①～⑥のうちから一つ選べ。 15

	①	②	③	④	⑤	⑥
K	ア	ア	イ	イ	ウ	ウ
L	イ	ウ	ア	ウ	ア	イ
M	ウ	イ	ウ	ア	イ	ア

問 4 次にミズホさんたちは、生活文化と自然環境の関係を個別の事例で説明するために、各地域の伝統的家屋を説明するカードを作成した。次のカードは展示資料Ⅱの表中の下線部㉓に関するものである。写真を説明した文として最も適当なものを、カード中の①～④のうちから一つ選べ。 16

① 強い日差しを避けるために窓は小さくなっている

② 集落内の風通しを良くするために屋根は平らになっている



③ 病虫害や疫病を防ぐために家屋が密集して建てられている

④ 季節風を避けるために樹木が植えられている

展示資料Ⅲ「食文化の多様性」

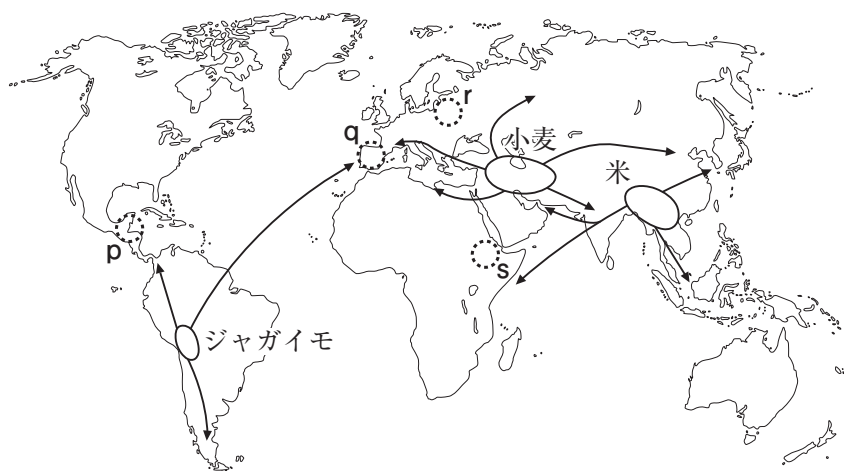


図 主な作物の伝播経路

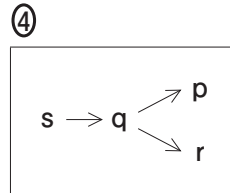
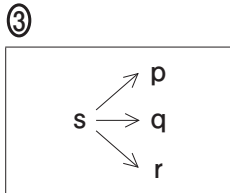
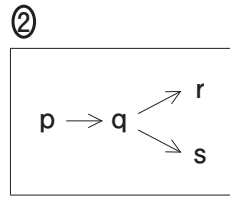
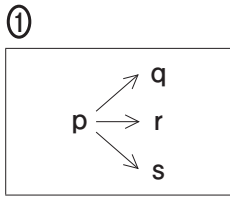
表 伝播経路および主食とする地域

作物	特徴
小麦	西アジアで栽培化され、ヨーロッパから中国にかけて伝わり、ヨーロッパ人が進出した地域にも広まった。
米	東は東南アジアから東アジア、西は南アジアまで伝わり、アジアでは広く主食とされている。
ジャガイモ	原産地の南アメリカからヨーロッパに持ち込まれ、現在でも南アメリカでは主食となっている地域がある。
トムモロコシ	・原産地はどこで、どのように伝播したか？(作成中) ・主食となっている地域はどこか？(作成中)

図は星川清親『栽培植物の起原と伝播』などにより作成。

問 5 ミズホさんたちは、生活文化のなかでも食文化の多様性に着目して、展示資料Ⅲをまとめることにした。展示資料Ⅲの図と表は、小麦、米、ジャガイモの伝播経路および主食とする地域を示したものであり、図中のp～sは、作成中のトムモロコシの原産地または伝播した地域を示している。トムモロコシの伝播経路を表した模式図として最も適当なものを、次ページの①～④のうちから一つ選べ。

17



問 6 ミズホさんたちが文化祭で展示資料Ⅲについて説明していると、他の生徒から質問があった。次の会話文中の空欄カとキに当てはまる文の正しい組合せを、下の①～④のうちから一つ選べ。 18

他の生徒 「世界の食文化は多様というけれど、最近は欧米諸国の文化が世界中に広がって、食文化はどんどん画一化されていってるんじゃないかな」

ミズホ 「確かに画一化している面もあるね。日本でも カ しているね」

他の生徒 「日本での食文化の画一化について、何か説明できるデータはないかな」

アズサ 「例えば キ を比較してみたらどうだろう」

ツバサ 「長い期間の推移をグラフにしてみる必要があるそうだね」

T フランス料理店やスペイン料理店など各国の料理を提供する店が立地

U アメリカ合衆国の巨大企業が全国各地でハンバーガーショップを展開

X 日本と欧米諸国の1人当たりカロリー摂取量とその内訳

Y 日本と欧米諸国の農産物輸出額とその内訳

① カー T キー X

② カー T キー Y

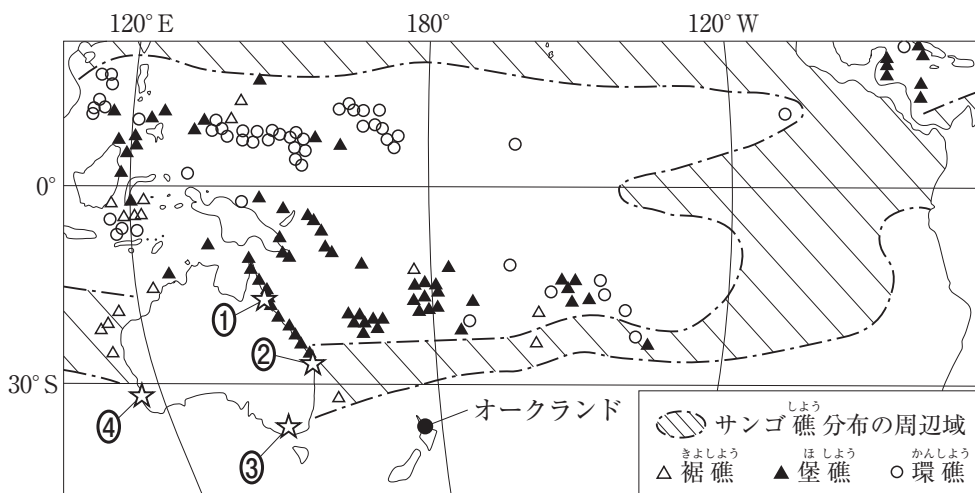
③ カー U キー X

④ カー U キー Y

地理B

第4問 オセアニアに関する下の問い(問1～6)に答えよ。(配点 20)

問1 ケッペンの気候区分で、次の図1中のオークランドと同じ気候区に含まれるオーストラリアの都市を、図1中の①～④のうちから一つ選べ。 19



堀(1990)により作成。

図 1

問2 上の図1は、オーストラリアから南太平洋にかけてのサンゴ礁の分布を示しており、次のA～Cは図1からの読み取りを、次ページのe～gはA～Cのいずれかに関連することがらを述べた文である。堡礁について当てはまる、図の読み取りと関連することがらとの適当な組合せを、次ページの①～⑨のうちから二つ選べ。ただし、解答の順序は問わない。 20 ・ 21

【図の読み取り】

- A オーストラリア大陸の東岸に多くみられる。
- B サンゴ礁分布の周辺域に多く分布する。
- C 南アメリカ大陸の西岸には分布しない。

【関連することがら】

- e 寒流や湧昇流ゆうしょうりゅうにより海水温が相対的に低い。
- f 現在の間氷期が始まり、海水温が上昇してから、サンゴ礁が形成可能になった。
- g 世界自然遺産のグレートバリアリーフを構成している。

	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨
図の読み取り	A	A	A	B	B	B	C	C	C
関連することがら	e	f	g	e	f	g	e	f	g

問 3 次の写真 1 は、太平洋島嶼国のサモアにおける伝統的な農村風景を撮影したものである。写真 1 に関連することがらについて述べた下の文章中の空欄アとイに当てはまる語の正しい組合せを、下の①～④のうちから一つ選べ。 22



K



L

写真 1

サモアは一年中暑く湿度が高いため、Kのような(ア)住居が数多くみられる。また、サモアの農村部に暮らす人々は自給自足に近い生活を送っており、Lのように、住居の周囲でココヤシなどとともに主食である(イ)を栽培している。しかし、近年は海外からの影響を受けて、伝統的な生活習慣や豊かな自然環境が変化しつつあり、持続可能な開発が課題である。

	①	②	③	④
ア	風通しの良い	風通しの良い	移動式の	移動式の
イ	タロイモ	バナナ	タロイモ	バナナ

地理B

問 4 下の表 1 は、次の図 2 中の太平洋島嶼国の旧宗主国または国際連合の信託統治の旧施政権国を示したものである。また、次ページの図 3 は、太平洋島嶼国に対するいくつかの国からの ODA(政府開発援助)供与額を示したものであり、カ〜クはアメリカ合衆国、オーストラリア、日本のいずれかである。国名とカ〜クとの正しい組合せを、次ページの①〜⑥のうちから一つ選べ。 23

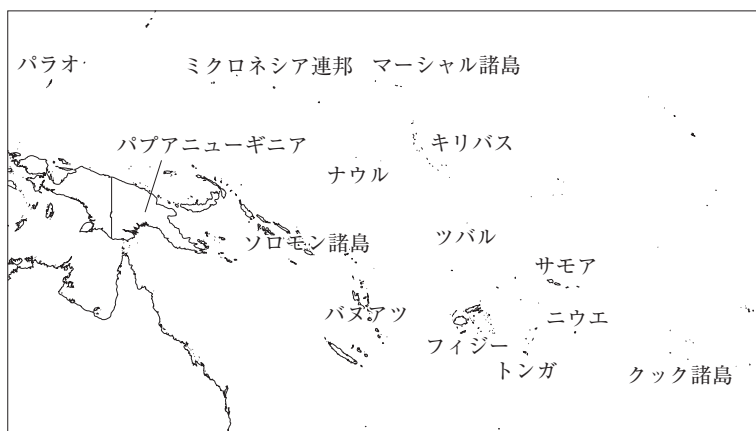
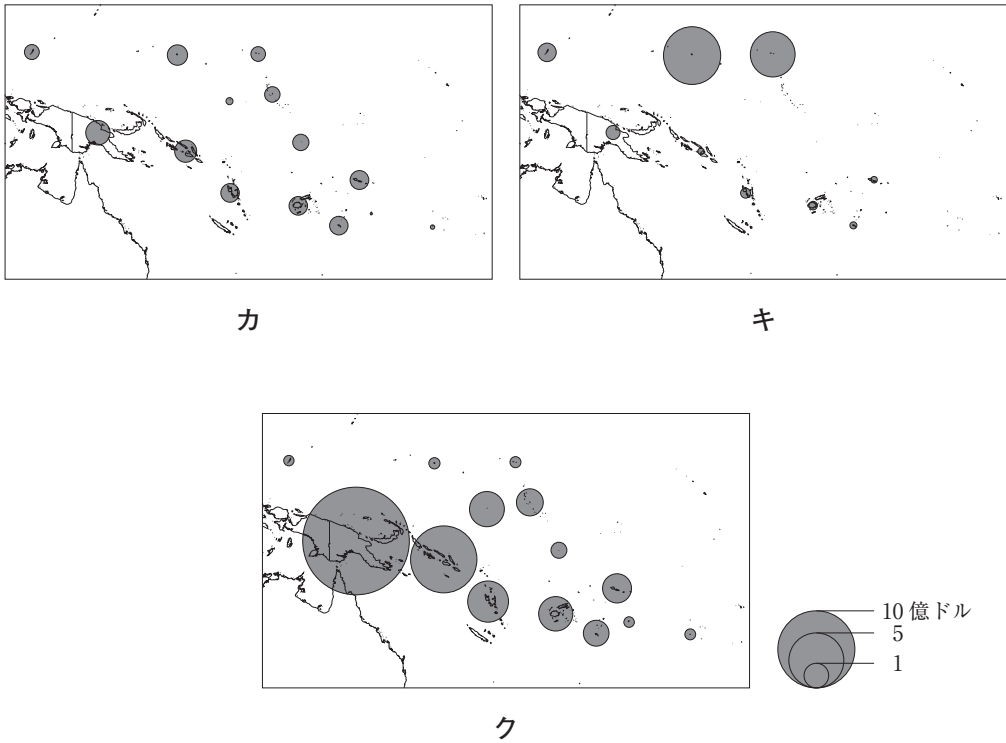


図 2

表 1

旧宗主国または 国際連合信託統治の旧施政権国	太平洋島嶼国
アメリカ合衆国	マーシャル諸島, ミクロネシア連邦, パラオ
イギリス	トンガ, フィジー, ソロモン諸島, ツバル, キリバス
オーストラリア	パプアニューギニア
ニュージーランド	サモア, クック諸島, ニウエ
2国(イギリス・フランス)	バヌアツ
3国(イギリス・オーストラリア・ ニュージーランド)	ナウル



統計年次は 2011～2015 年の合計。
OECD の資料などにより作成。

図 3

	①	②	③	④	⑤	⑥
アメリカ合衆国	カ	カ	キ	キ	ク	ク
オーストラリア	キ	ク	カ	ク	カ	キ
日本	ク	キ	ク	カ	キ	カ

地理B

問 5 ニュージーランドとカナダは、太平洋を挟んで1万 km 以上も離れているが、その歴史、社会、生活文化などには共通点も多い。次の表 2 は、1985 年と 2015 年におけるニュージーランドとカナダへの移民数が多い上位 5 位までの送出国を示したものである。また、下の文章は、表 2 の読み取りとそれに関連することがらについて述べたものであり、文章中の空欄 P～R には次ページのサ～スの文のいずれかが当てはまる。空欄 P～R とサ～スとの正しい組合せを、次ページの①～⑥のうちから一つ選べ。 24

表 2

順位	ニュージーランド		カナダ	
	1985 年	2015 年	1985 年	2015 年
1 位	オーストラリア	オーストラリア	ベトナム	フィリピン
2 位	イギリス	イギリス	ホンコン	インド
3 位	アメリカ合衆国	インド	アメリカ合衆国	中国
4 位	サモア	中国	イギリス	イラン
5 位	カナダ	フィリピン	インド	パキスタン

中国には、台湾、ホンコン、マカオを含まない。
ニュージーランド統計局の資料などにより作成。

移民の受入国となるニュージーランドとカナダでは、言語が共通する国からの移民が多い。1985 年をみると、ニュージーランドでオーストラリアやサモアから、カナダでアメリカ合衆国から移民が多いのは、P ことが影響している。2015 年には、ニュージーランドとカナダとで共通する国からの移民が急激に増加しており、これは Q ためである。その一方で、R ために、2015 年の移民数の送出国別順位にニュージーランドとカナダで違いがみられる。

- サ 受入国での難民に対する政策が異なる
- シ 経済発展した送出国との結びつきが強まった
- ス 送出国と受入国とが地理的に近接している

	①	②	③	④	⑤	⑥
P	サ	サ	シ	シ	ス	ス
Q	シ	ス	サ	ス	サ	シ
R	ス	シ	ス	サ	シ	サ

問 6 2 国間での人口移動には、送出国と受入国のそれぞれの国内における状況も影響する。次の図 4 は、オーストラリア・ニュージーランドと太平洋島嶼国との間の人口移動を引き起こす要因について、送出国と受入国とでまとめたものである。送出国と受入国とにおける人口移動の要因として**適当でないもの**を、図 4 中の①～⑧のうちから二つ選べ。ただし、解答の順序は問わない。

25 ・ 26

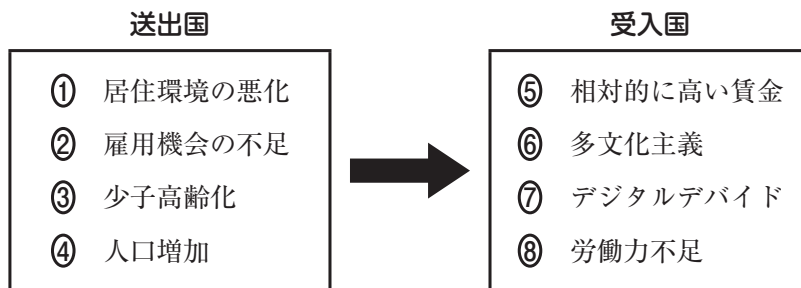
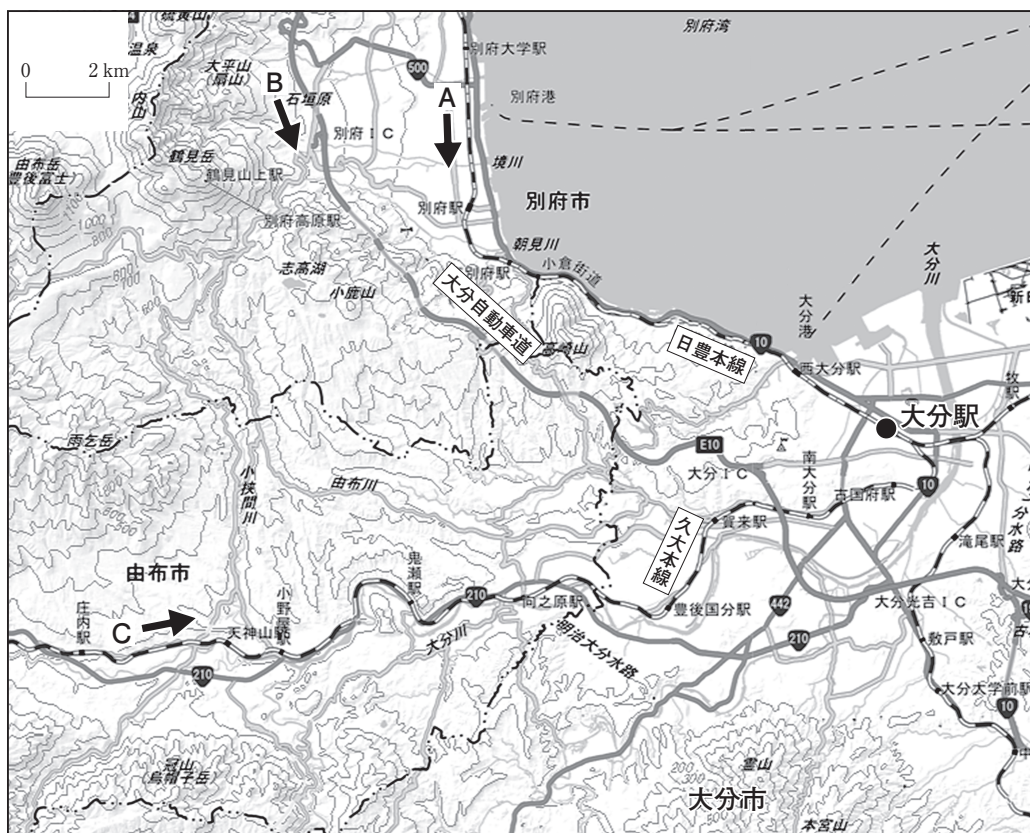


図 4

地理B

第5問 高校生のリョウさんは、大分県大分市の大学に進学した姉のサツキさんを訪問して、大分市と別府^{べつぷ}市を中心とした地域の調査を行った。この地域調査に関する下の問い(問1～6)に答えよ。(配点 20)

問1 リョウさんは、次の図1を参考に大分駅に行く経路を考えた。図1中のA～Cは、リョウさんが候補とした経路を示したものであり、Aは日豊本線の列車^{につぼう}を、Bは大分自動車道を通り大分駅前へ行く高速バスを、Cは久大本線の列車^{きゅうだい}を、それぞれ使う経路である。また、次ページのア～ウの文は、それぞれの経路の様子について、リョウさんが図1から読み取った内容である。A～Cとア～ウとの正しい組合せを、次ページの①～⑥のうちから一つ選べ。 27



地理院地図により作成。

図 1

- ア この経路では、大分市に入ると進行方向右側に山が迫るだろう。
- イ この経路では、大分市に入るまで国道沿いの谷を通ることが多いだろう。
- ウ この経路では、大分市に入るまで標高の高い山麓を通ることが多いだろう。

	①	②	③	④	⑤	⑥
A	ア	ア	イ	イ	ウ	ウ
B	イ	ウ	ア	ウ	ア	イ
C	ウ	イ	ウ	ア	イ	ア

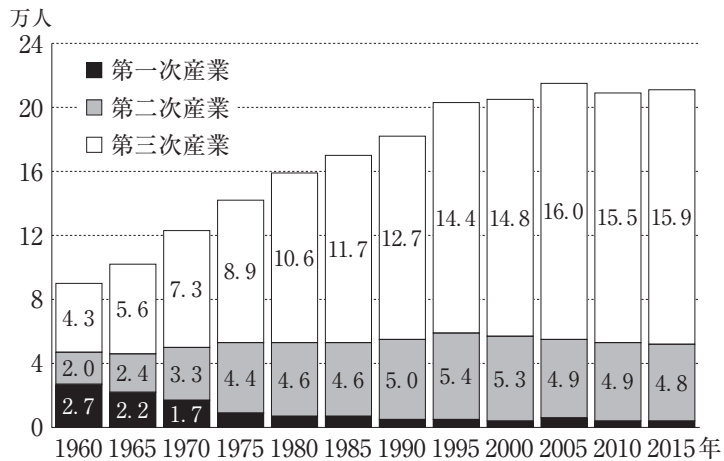
問 2 大分市の駅前商店街の観察から景観変化に関心をもったリョウさんは、新旧の地図を比較することにした。次ページの図2は、大分市中心部における1930年に発行された2万5千分の1地形図(原寸、一部改変)と、これとほぼ同じ範囲の2018年の地理院地図である。図2から読み取れるこの地域の変化を述べた次の会話文中の下線部①～④のうちから、**適当でないもの**を一つ選べ。

28

- サツキ 「昔の大分市中心部の地形図を、大学の地理の先生からもらってきたよ。インターネットから出力した現在の地図と比べてみよう。大分駅前から北へ延びる大通りには、かつては①駅前から市街地中心部や海岸線に伸びる路面電車があったんだね。今もあったら便利だろうね」
- リョウ 「路面電車は近年見直されてきているよね。海からの玄関口である②フェリー発着所は、昔は『師範校』だったんだ」
- サツキ 「西側の山麓には、『歩四七*』や『^{れんべいじょう}練兵場』などの表記から分かるように、軍用地があったんだね。③現在では一部は学校用地などになっているのかな。大分城の北東に広がる④区画整理された地区も、今では宅地化しているね」
- リョウ 「地図を見比べて確認しながら、もっと大分の街を歩いてみたいね」
- *歩四七は、歩兵第47連隊を省略して示したものである。

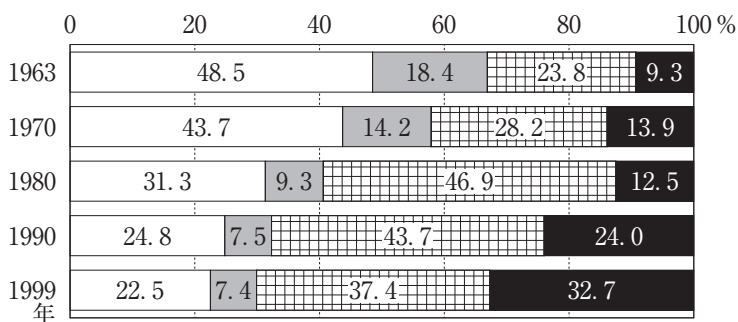
問 3 臨海部の工業地帯を地図でみたりョウさんは、大分市の産業変化に関する論文や統計データをインターネットで調べ、市の発展が「新産業都市*」指定の影響を受けたことを知った。次の図3は大分市の産業別就業者数の推移を、図4は大分市の工業種別従業者数の割合の推移を、それぞれ示したものである。図3と図4から読み取れることがらをリョウさんがまとめた次ページの文章中の下線部①～④のうちから、**適当でないもの**を一つ選べ。 29

*重化学工業などを育成し地域開発の拠点とした地域。



「分類不能」を除く。国勢調査などにより作成。

図 3



□ 軽工業 ■ 地場資源型素材工業 田 臨海型素材工業 ■ 機械工業

「地場資源型素材工業」はパルプ・紙，土石等を，「臨海型素材工業」は鉄鋼や金属，化学工業を示す。

宮町(2004)により作成。

図 4

地理B

【リョウさんがまとめた文章】

1963年には当時の地方工業として典型的であった①軽工業と地場資源型素材工業が全業種の約3分の2を占めていたが、1964年に新産業都市に指定され臨海部の大規模な埋め立てが進むと、②臨海型素材工業の拡大とともに第二次産業人口は増加した。その後、1980年から90年代末にかけて、③機械工業の大幅な伸びに支えられ、第二次産業人口割合も拡大した。工業都市としての成長を背景に大分市の人口も伸び、④1960年に全体の5割に満たなかった第三次産業人口は2015年には7割を超えるようになった。

問4 大分市で多くの保育所待機児童*が報告されていることを知ったリョウさんは、「なぜ大分市で保育所不足が生じたのだろう」という問いをもち、いくつかの資料をみながらサツキさんと仮説を立てた。次の図5は、リョウさんとサツキさんが考えた仮説を示しており、図中の資料D～Fには、**仮説を考えたもととなった資料**として、次ページの図6中のカ～クがそれぞれ当てはまる。D～Fとカ～クとの組合せとして最も適当なものを、次ページの①～⑥のうちから一つ選べ。 30

*保育所への入所を希望して入所できない児童のうち、一定の基準を満たす者。

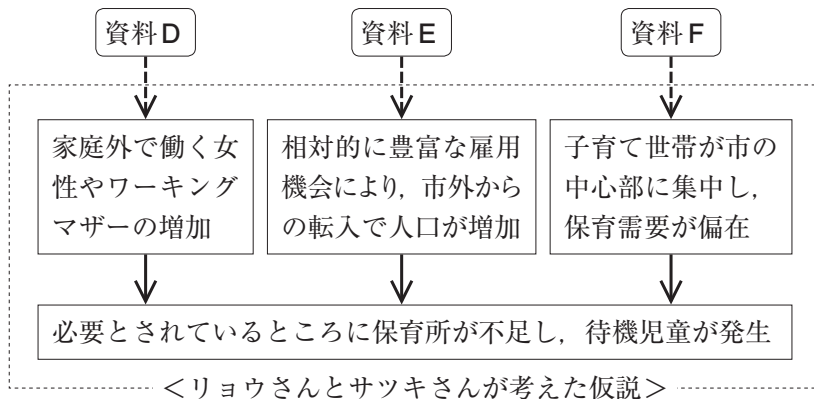
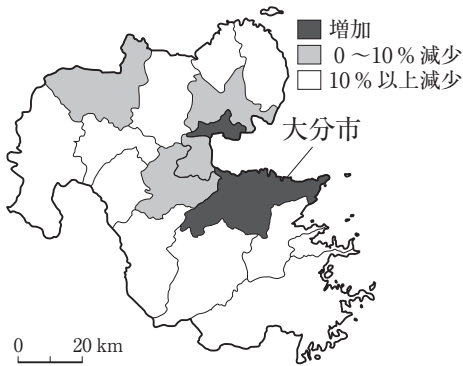
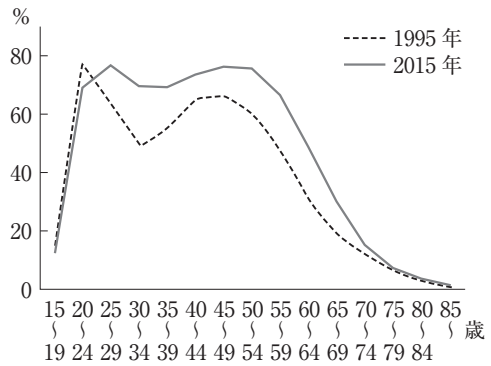


図 5



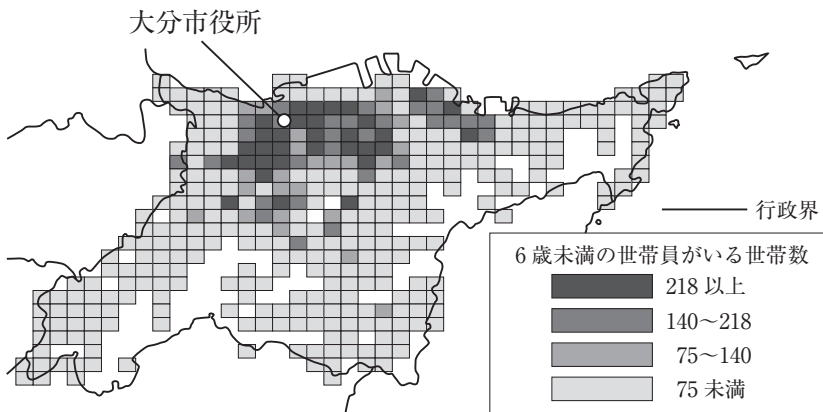
大分県内の人口増減率
(1995～2015年)
行政界は2015年時点。
国勢調査により作成。



大分市の女性の年齢階級別労働力率
(1995年・2015年)
国勢調査により作成。

カ

キ



6歳未満の世帯員がいる世帯数の1 km メッシュマップ(2015年)
メッシュのない範囲はデータなし。
国土地理院の資料により作成。

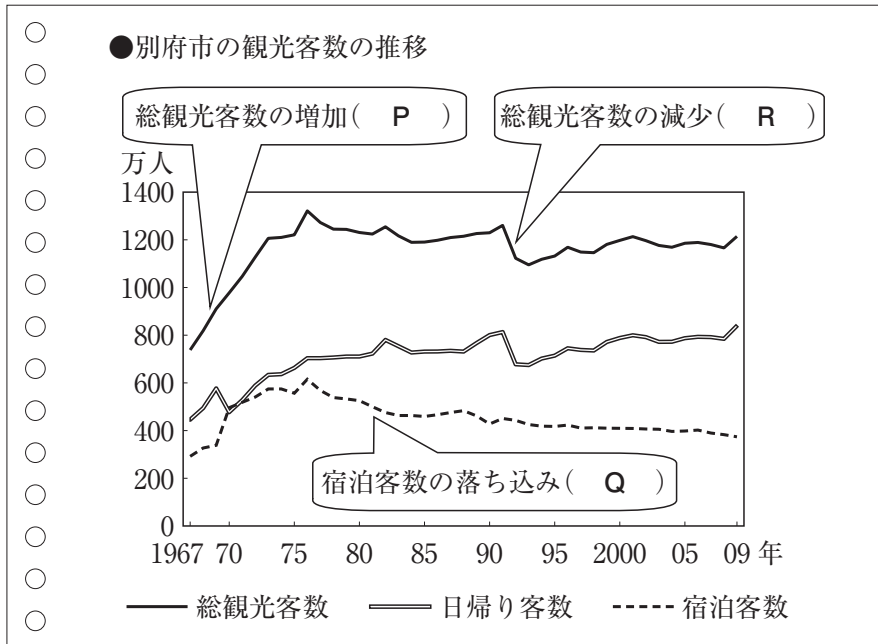
ク

図 6

	①	②	③	④	⑤	⑥
D	カ	カ	キ	キ	ク	ク
E	キ	ク	カ	ク	カ	キ
F	ク	キ	ク	カ	キ	カ

地理B

問 5 別府市の観光案内所に立ち寄ったリョウさんは、別府温泉が長い歴史をもつ観光地であることを知った。次の図7は、リョウさんが得た資料から作成したレポートの一部であり、図7中の空欄P～Rには観光客数の増減に関する背景として、下のサ～スのいずれかの文が当てはまる。P～Rとサ～スとの組合せとして最も適当なものを、下の①～⑥のうちから一つ選べ。 31



調査方法が変更されたため2010年以降の値は示していない。
別府市『観光動態要覧』により作成。

図 7

- サ 国民所得の向上と全国的なレジャーブーム
- シ 石油危機による低成長への転換や、交通網の整備
- ス 日本経済における急激な景気の悪化

	①	②	③	④	⑤	⑥
P	サ	サ	シ	シ	ス	ス
Q	シ	ス	サ	ス	サ	シ
R	ス	シ	ス	サ	シ	サ

問 6 リョウさんとサツキさんは、観光やまちづくりを目指して、様々な取組みが行われていることを話し合った。次の会話文中の空欄タに入る国名と、チに入る具体的な取組みを述べた下のXまたはYの文との組合せとして最も適当なものを、下の①～④のうちから一つ選べ。 32

リョウ 「街中で外国からの観光客の姿を多く見かけたね」

サツキ 「大分県には温泉観光資源が多く、2015年には海外から大分県に年間約56万人の宿泊観光客が訪れているよ。近年は歴史的、地理的なつながりの深い(タ)から来る人たちが56%と最も多いよ。大分県をはじめ九州では、外国人観光客の割合が高いことが特徴だね」

リョウ 「これからの観光に向けて、どんな取組みが行われているのかな」

サツキ 「大分にとどまらず、日本各地で様々な取組みが進められているよ。例えば日本では、 チ にも取り組んでいるね。こうした取組みなどを進めながら、観光を通して定住人口の減少を交流人口の増加で補い、持続可能な地域の活性化を目指しているよ」

X 行政やサービスなど観光に関わる専門的な人材の育成

Y 観光客1人当たりの観光消費額の抑制

	①	②	③	④
タ	アメリカ合衆国	アメリカ合衆国	韓国	韓国
チ	X	Y	X	Y